

第2回 我が国物流システムの国際標準化等の推進に関する連絡検討会 議事概要

1. 日時

平成28年6月22日（水） 13:00～15:00

2. 場所

中央合同庁舎2号館16階国際会議室

3. 議事概要

1. 経済産業省より、国際標準化を取り巻く現状と、国際標準化を目指す際のプロセス等について説明を行った。
2. 次に、ヤマトホールディングス(株)より、小口保冷輸送サービスに関する国際規格（以下、「PAS」）策定の取組について、趣旨及び進捗状況等に関する説明を行った。
3. 最後に、農林水産省より、小口保冷輸送サービスに関連の深い食品に関し、JAS規格及び食品安全管理規格の取組と今後の展望について説明を行った。
4. 委員からは全体を通じ、以下のような発言があった。

【コールドチェーンに関連した規格化の動きについて】

- コールドチェーンという言葉のカバーする範囲は広範で、定義は文脈によって変わることがある。内容の詳細は把握しきれていないものの、少なくとも中国ではコールドチェーンの規格化の動きがある。
- 中国は食品安全マネジメントに係る規格の策定にもかなり力を入れている。
- 昨年日本・中国・韓国3か国の標準化機関の情報交換の場において、韓国の標準化機関KATSからコールドチェーンの標準化を日中韓で進めたいという提案があった。

【PASについて】

- 今回の英国規格協会(BSI)のPAS(公開仕様書)規格策定サービスの活用は、製品からサービス・プロセスの規格へ移行している昨今の潮流に乗った取組かと思う。標準の種類は、様々なコンセンサスレベルと策定プロセスが存在するが、それらの標準の種類を念頭に、対応を進めて行くのが良い。全面的に協

力したい。

- 今回策定を目指している PAS は、保冷宅配便サービスを提供する物流事業者が、預かった荷物を一定の温度帯の空間（車両や冷蔵庫）の中で運ぶサービスを提供する際、どのようなオペレーションが行われるべきかの基準を意図している。

一般的にコールドチェーンの規格というと、荷物（例えば食品）そのものの取扱い方（温度を一定に保つこと等）や、車両や倉庫の仕様に関する規格がイメージされることが多いと思われる。

これに対し、本 PAS は、保冷宅配便「サービス」のスタンダードを規定するもの。

- 海外への展開を考えると、最終的に ISO 化を目指すのはとても良いこと。そのためには ISO と親和性を持った形での PAS 策定を目指すことが重要。日本発の規格なので、まずは日本の物流企業に取得してもらうのが良いのではないか。それによって、認証取得及び実際のオペレーションの際に、事業者にとって難しい点はどこか見え、規格の改善に繋がるのではないか。
- 日本の農水産物輸出の拡大という観点からも、日本の食品の品質を示す JAS 規格や食品安全管理規格の展開を検討しているが、PAS とうまく連携を図っていけることを期待。

【PAS 策定後の普及について】

- 各国政府機関への紹介や、各国制度への取り込みの働きかけ等は、政府として支援できる場面。多国間の政策協議の枠組みや、二国間での政策対話などの場を活用し、しっかりと協力していきたい。
- 認証機関において、認証を希望する海外企業に対し、現地の言葉で対応できるようにすることが規格の普及に繋がるのではないか。
- 海外で宅配便サービスの事業展開をしている自社グループの現地法人で、まず先例として認証取得を目指し、普及活動を行ってきたい。

以上
(文責 事務局)